

まちかど ネットワーク

お便りをお待ちしています

このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています。あなたの情報を、ぜひ広報広聴課へお寄せください。

☎55-2700 ㊟51-1456

✉kouhou@div.city.fuji.shizuoka.jp



▲ブータンの職業訓練学校での金森さんと生徒たち

ブータンは、ヒマラヤ山脈の南に位置し、標高が高く、チベット仏教を国教とする国です。信仰心が厚く、宗教と生活が一体化しています。でも伝統的な梵鐘などは、輸入製品がふえたため、国内の鑄造工場は減ってしまいました。

ブータンは、ヒマラヤ山脈の南に位置し、標高が高く、チベット仏教を国教とする国です。信仰心が厚く、宗教と生活が一体化しています。でも伝統的な梵鐘などは、輸入製品がふえたため、国内の鑄造工場は減ってしまいました。

伝統的な鑄造技術を教えにブータンへ行った

金森 寛さん
(鈴木東町)



「私は、鑄造技術復活のため、職業訓練学校で2年間に24人の生徒を教えました。生徒は10代後半から20代前半までで、女性が多くて、熱心に学んでいましたね。授業は、梵鐘や小仏具のつくり方などさまざまな鑄造技術の工程を細かく教えました。」

一方、授業以外は、寮住まいの生徒と頻繁にお祭りやパーティーなどをして、家族のようなつき合いをしていました」と語る金森さん。ブータンの人々と自然が大好きだったそうです。

「ブータンを離れるとき、今後の成長を願って、特別に卒業証書を手づくりして、生徒に渡ししました。生徒がとても感動してくれたことが私の思い出です。」

最近では、技術指導のかいあつて、ブータンの町には少しずつですが、鑄造工場がふえてきています。機会があればまた海外協力に行きたいですね」と、ブータンでの貴重な経験を熱く語ってくれました。

公共交通ひとくちメモ

富士市でも、路線バスが廃止された田子浦地区で、平成19年4月から地元と市が資金を出し合って、「コミュニティバスしおかぜ」の運行を始めました。ワゴン車を使った小さなバスですが、少しずつ利用者がふえています。

ボクが田子浦地区を走っているよ。利用してね!

しおかぜ



問い合わせ
都市計画課 ☎55-2904
㊟51-0475

みんなで残そう!! バス 電車

第4回 地域で支える「くらしの足」②



このコーナーでは、路線バスや地方鉄道の現状に詳しい、交通ジャーナリストの鈴木文彦さんのコラムを5回にわたり紹介しています。

現在、全国では地元の自治会やNPOなどが、主体的に地域の公共交通にかかわる事例がふえています。

三重県四日市市では、住民がNPOを組織して、地域の病院やスーパーから協賛金を集めたり、乗る・乗らないにかかわらず地域のためにバスを支援する「応援券」を販売したりしています。

集まった資金でいかにニーズに合った運行をするか、バス会社と一緒に考えてきた上で、「生活バスよっかいち」というバスを走らせ、大変好評です。

また、青森県鯉ヶ沢町では、住民みんなで「バス路線は地域のライフライン」という合意をし、水道や電気などと同じように、全

世帯が一定の「基本料金」を毎月負担して維持しているバス路線があります。どちらも、住民自身の工夫に対して行政も資金援助をしています。

一方、広島市郊外では、バスが入ることのできない狭い坂道の交通手段を確保するため、ルートや停留所、運営のサポート方法を住民みずから考え、事業者と共同で開発した乗合タクシーが走っています。こちらは資金面では市はかわらず、側面的に応援する形です。

いずれにしても共通しているのは、住民が主役になって、地域に最も合った方法で「くらしの足」をつくり、育てていることです。